

割合が他より高く、福岡県下では同回答の割合が他より低かった。(近畿圏下:50.0%、兵庫県下:57.1%、福岡県下:25.0%)

自由回答としては「保険診療とした場合のメリット、デメリットが分からないので回答できません」「臓器移植と同じでいいのでは」が挙げられた。

(12) 今後の望ましい組織移植の活動

今後の望ましい組織移植の活動については、全体では割合が高い順に「法的整備が必要」(73.4%)、「分からない」(16.3%)以下別添図参照であった。

また、対象別にみると、兵庫県下及び福岡県下では、いずれも「法的整備が必要」と回答している割合が高かった(近畿圏下:66.7%、兵庫県下:77.8%、福岡県下:81.8%)。

また、自由回答として「臓器移植と同じ法律下での推進が必要」「医療機関にこうした活動があることを現在の問題点も含めて広く知らせる必要があると思います」「昨年脳死下臓器提供を経験しました。慣れない中での経験で、大変さだけが残ったり、反省が多いものでしたが、ドナーの方々や提供者のご家族の方々の気持ちや経過を知る事で嬉しい気持ちになりやりがいを感じました。角膜以外の組織提供のドナーの方の声をもっと聴かせてあげることで少しずつ意識も変わってくるのではないのでしょうか」等が挙げられた。

尚、アンケート結果詳細は別添①の通りである。

D. 考察

1. 回答者属性より、兵庫県、福岡県共に院内 Co.は経験年数 10 年以上の医師、看護師等が担っている傾向があった。これらの職員は院内の体制整備、即ち施設の方針についても検討し得る方々であり、臓器・組織提供への理解を求めらるにあたって特定の働きかけるのは有効であると推測される。

2. (1) 臓器提供のための体制整備より、院内 Co.は自身の施設が臓器提供に対してどのような体制であるか把握して

いる率が高い事が明確になった。多くが臓器提供可能施設と認識しており、院内 Co.の多くが臓器提供可能施設に配置されている事が明確になった一方で、自身の施設は臓器提供が出来ないと認識している院内 Co.がいる事も浮き彫りになった。

(2) 組織提供のための体制整備より、自身の施設が組織提供に対してどのような体制であるか把握している率について、院内 Co.対象アンケートでは非院内 Co.対象アンケートより若干高い傾向が見られたが、(1) 臓器提供のための体制整備と比して、「分からない」と回答した割合が高かった。即ち、組織提供の体制整備は内 Co.であっても十分認識されていない事が判明した。施設使用許可は一度許可頂いた場合は継続して許可とさせて頂くことは、許可を頂戴する際にお伝えしているが、許可書を発行した後、スタッフの変更等もあり。継続して認識されにくい可能性が示唆される。施設使用許可を頂戴している施設に対しては、継続的に組織提供可能施設である事を、啓発も兼ね伝える必要がある。

また、脳死下臓器提供について体制を整備している施設が、組織の提供についても可能である傾向にあった。施設使用許可を依頼するにあたって、脳死下及び心停止下臓器提供可能施設から優先的に依頼する事は、有用であると思われる。

(3) 組織移植の認知度より、一定数以上の医療従事者が組織移植についてもある程度の知識がある事が判明した。また、院内 Co.は組織移植の認知度が高い傾向にあるものの、その差は顕著なものではなかった。実際の臓器・組織提供時に主として関わる事となる院内 Co.に対してより積極的に組織移植について啓蒙していく事が必要である。

また、組織提供のための体制整備別にみると、組織提供可能施設で、組織移植に関する認知度、経験度が高い事が分かった。これは組織提供のための施設使用許可を依頼する際や、組織提供となり得る症例の発生時に施設使用許可を頂戴す

る際に、組織移植について説明する機会があったためと推定される。

一方で、施設使用許可書が未発行あるいは不明という施設であっても、組織移植に関する認知度はある一定数ある事が分かった。これらの施設に対しても引き続き啓蒙していくことは重要と考えられる。

(4) 認知している組織移植より、院内 Co.対象アンケートと非院内 Co.対象アンケートでは、認知度に差があった。院内 Co.会議や研修会で組織移植について説明する機会を頂いてお伝えしていることから、認知度の上昇に繋がっていると考えられる。

「皮膚」移植はメディア等で目や耳にする事も多く、それが認知度の高さに繋がっていると推測される。

西日本では心弁・血管の提供は兵庫県、大阪府、奈良県でのみ可能であることから心臓弁・血管の認知度に対象別で差が生じたと推測される。同様に福岡大学では臍島移植を実施していることから、福岡県院内 Co.の臍島移植の認知度がそれ以外と比して高いと推測される。これらの事から、所属している施設がある地域で提供可能な組織について、医療従事者がある程度の関心を抱いていると推測される。

(5) 臓器・組織の提供協力意向より、全体として、臓器・組織の提供に協力する意向が高い傾向であることが判明した。また、臓器提供について体制を整備している施設は臓器・組織の別なく提供に協力する意向の傾向にある事が分かった。その一方で協力が困難と思われるとの回答もあり、今後協力が困難である具体的理由の分析も必要である。また、施設使用許可書が未発行あるいは発行不明であっても一定数の医療従事者が組織の提供にも協力する意向である事が分かった。症例が発生した時からではなく、それ以前から施設使用許可の依頼と併せて啓発活動を行っていくことが重要である。

(6) 臓器・組織の提供に協力する理由より、いわゆる提供側の医療従事者にとって、提供に協力する理由は、移植医療が有用であるからというレシピエント視点より、患者さんやご家族の希望に応えたいというドナー視点である事が著明となった。また、施設使用許可書の発行が未あるいは不明であっても、患者さんやご家族の希望に応えたいという意向がある事が分かった。これらの施設に対して積極的に啓発していくことが重要と考えられる。

(7) 臓器のみ提供に協力する理由において、高い割合で「組織移植についてよくわからないから」の回答が選択されていた。この回答から、組織移植について「知る」事が、提供に協力したいと思う気持ちへの障壁を取り除く可能性が示唆される。

(8) 提供への協力は困難である理由において、半数以上が「手続きや調整の仕方が分からないから」を挙げた。臓器・組織提供の際の全体の流れのみならず、実際の施設内での動きや調整についても臓器移植及び組織移植 Co.が積極的に啓発、関与する事が必要と考えられる。

(9) 組織移植に関する体制への要望から、高い率で、組織提供協力時における手術室使用費やスタッフの人件費に対する配慮が求められていることが明らかとなった。施設使用許可を依頼する際、金銭的配分が無い旨はお伝えし、ご了解を頂戴している場合にのみ組織移植 Co.が施設に入らせて頂く事としているが、施設使用許可を頂戴して以降、実際の症例発生までにスタッフが変更となっている場合も多く、提供の都度改めてお伝えする事は、トラブル回避のためにも必要と考えられる。また、臓器のみ提供に協力するという回答群で配慮を求める率がやや高くなる傾向である事が分かった。これにより、費用配分がない事が、組織提供への協力意向への妨げとなっている可能性が示唆される。提供施設への配慮も視野に入れた保険診療体制の構築に向け、組織移植関係者・組織全体で検討、提言していくことが必要である。

(10) 組織移植に関して希望する活動、ツールより、高い率で院内スタッフを対象とした勉強会が求められている事が分かった。また、特に院内 Co.からは最近の動向や他院での状況等の情報が求められている事も判明した。より積極的に院内勉強会の開催の支援や、ニュースレター等の作成、運用をすることが必要と考えられる。

(11) 心臓弁・血管移植医療の扱いについてより、先進医療、保険診療を併せると施設を限定すべきとの意向が特に院内 Co.で高い事が分かった。施設を限定したて実施するとした場合、現在の2バンク（国立循環器病研究センター組織保存バンク、東京大学医学部附属病院組織バンク）で供給を行うことは実現可能と推定されるため、この実現に向けて進めることは重要と考えられる。

(12) 今後の望ましい組織移植の活動より、高い率で組織移植に関する法的整備が必要と考えられる傾向が明らかとなった。特に、院内 Co.ではその傾向が強かった。臓器、組織の別なく患者さんやご家族の希望に応える体制を整備するためには、組織提供のための院内体制整備について担保するためにも、臓器移植法のガイドラインに組織についても提供意思を確認する旨等の記載が追加される事が重要と推測される。

E. 結論

アンケートの結果、提供協力意向がある場合、臓器・組織の提供協力意向の差異は小さい事が判明した。その一方で、院内 Co. 配置施設であっても、組織提供のために必要な施設使用許可について未発行、発行不明である施設が多数ある事も浮き彫りとなった。また、より正確、詳細に組織移植について「知る」事で、提供意向が向上する

可能性が高い事も示された。施設使用許可依頼時以外にも継続して啓発する事が必要と考えられる。

尊い提供意思を臓器・組織の別なく最大限生かすために、より広く組織移植に関する情報を提供できるよう、そのツールを検討、運用する事が必須である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

厚生労働科学研究費補助金交付事業の取り組み・第13回日本組織移植学会・2014・日本組織移植学会雑誌第13巻第1号 (P133)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

(別記)

「組織移植に関する調査」概要

①調査目的：

主に西日本組織移植ネットワークの活動地域の施設の医療従事者を対象とした、「組織移植」に関する認知度を把握し、それに伴う意識レベル及び要望の調査を行う。

②調査対象者とサンプル数：

i) 近畿救急医学研究会参加者

エリア：大阪、兵庫、奈良、和歌山、京都、滋賀

アンケート配布方法：上記学会参加受付後、手渡しにて配布

配布数：300

有効回答数：96（回収率：32.0%）

ii) 兵庫県下院内コーディネーター

エリア：兵庫

アンケート配布方法：2014年9月26日、兵庫県臓器提供懇話会にて配布

上記会議不参加院内Co.へは2014年1月末に郵送

回収方法：返信用封筒を同封し、返信回収

配布数：122

有効回答数：63（回収率：51.6%）

iii) 福岡県下院内コーディネーター

エリア：福岡

アンケート配布方法：2014年12月16日、福岡県院内コーディネーター会議にて配布

回収方法：会議終了後、その場にて回収

配布数：50

有効回答数：44（回収率：88.0%）

③調査実施・協力機関：

国立循環器病研究センター

兵庫医科大学

福岡大学

（公財）福岡県メディカルセンター

④調査実施期間：

上記

⑤アンケート内容

<前文>

本アンケートは、組織移植に関する認知度を調査し、組織移植を推進するとともに、組織の公平な供給体制構築のための研究を行うため、厚生労働省科学研究補助金の交付（難治性疾患等政策研究事業（移植医療基盤整備研究分野（組織の適切な供給体制構築のための基盤構築に向けた研究））を受けて実施するものです。

本アンケートで得られた情報は、本研究及び組織移植を実施するための体制構築の目的にのみ使用いたします。個人の情報が公開されることは一切ありません。データは国立循環器病研究センター組織保存バンクで管理をいたします。

上記についてご了承の上、ご協力いただける場合には、次頁からのアンケートにお進みください。

（アンケート所要時間：約 10 分）

アンケート実施者：

国立循環器病研究センター/西日本組織移植ネットワーク

〒565-8565 大阪府吹田市藤白台 5-6-5

Tel : 06-6836-3892

国立循環器病研究センター 心臓外科部長 藤田 知之

<アンケート本文>

Q1.所属されている施設の地域を教えてください

- 1.兵庫県
- 2.その他（ ）

Q2.現在所属されている施設は臓器提供が可能ですか？

- 1.脳死下及び心停止下臓器提供が可能である
- 2.心停止下臓器提供が可能である
- 3.臓器提供が出来ない
- 4.分からない

Q3.現在所属されている施設は組織提供が可能（*）ですか？

（*）組織提供は手術室を有する施設で、且つ組織の提供に関する施設使用許可書を発行している施設で可能です

- 1.組織提供が可能である
- 2.手術室がないため組織提供は出来ない
- 3.手術室はあるが使用が難しいため組織提供は出来ない
- 4.施設使用許可書が発行されていないため組織提供は出来ない
- 5.施設使用許可書が発行されているかどうか分からない
- 6.その他（ ）

Q4.組織移植についてご存知ですか？

- 1.ある程度知っていて、提供に関わった事がある
- 2.ある程度知っているが、提供に関わった事はない
- 3.聞いたことはある
- 4.聞いたことがない

Q5.（ご存知の方）具体的にどの組織についてご存知ですか？（複数回答可）

- 1.心臓弁・血管
- 2.皮膚
- 3.骨
- 4.臍島

Q6.患者さん、ご家族から臓器・組織提供の申し出があった場合、どのように対応されますか？

- 1.臓器・組織の提供に協力する（→Q7.）
- 2.臓器のみ提供に協力する（→Q7.、Q8.）
- 3.組織のみ提供に協力する（→Q7.）
- 4.協力は困難と思われる（→Q9.）

Q7.（Q.6で1.～3.とお答えの方）その理由をお選び下さい（複数回答可）

- 1.患者さんやご家族の希望に応えたいから
- 2.施設の方針だから
- 3.スタッフにとって経験・勉強になるから
- 4.移植医療は有用だから
- 5.その他（ご自由にお書き下さい：)

Q8.（Q6.で2.とお答えの方）その理由をお選び下さい（複数回答可）

- 1.法的整備が不十分と考えるから
- 2.臓器移植だけで十分と考えるから
- 3.組織移植についてよく分からないから
- 4.分からない
- 5.その他（ご自由にお書き下さい：)

Q9.（Q6.で4.とお答えの方）その理由をお選び下さい（複数回答可）

- 1.通常の業務が忙しいから
- 2.手続きや調整の仕方が分からないから
- 3.過去、提供症例の経験があり大変だったから
- 4.移植医療に賛同できないから
- 5.施設の方針だから
- 6.施設への費用の補填がないから
- 7.その他（ご自由にお書き下さい：)

Q10. 現在、臓器提供に対しては提供施設への費用の補填が保険より成されませんが、組織の提供の場合費用の補填は成されていません。仮に提供施設への金銭的配慮がなされるなら、どのような配慮が妥当と思われますか？（複数回答可）

（現在、組織提供時に提供施設にご協力頂いている事）

*手術室及び持参が不可能な物品（手術台、バックテーブル等）の借用（摘出器材等は摘出チームが持参）

*ご家族への説明及び手術において可能な範囲で主治医やスタッフの立ち会い

- 1.施設使用費（手術室以外）に対する配慮
- 2.手術室使用費（手術台等借用費含む）に対する配慮
- 3.スタッフの人件費に対する配慮
- 4.水道、光熱費等に対する配慮
- 5.金銭的配慮は不要
- 6.分からない
- 7.その他（ご自由にお書き下さい： ）

Q11.組織提供に関して貴施設で希望される活動、ツールがあればお選び下さい（複数回答可）

- 1.院内スタッフを対象とした勉強会
- 2.院内マニュアル作成の支援
- 3.医療従事者向けの啓発グッズの配布
- 4.患者さん、ご家族向けの啓発グッズの配布
- 5.最近の動向や他院での状況等の情報
- 6.特になし
- 7.その他（ご自由にお書き下さい： ）

Q12.組織移植のうち心臓弁・血管移植は全国どの施設でも実施可能ですが、保険診療ではありません。東京大学医学部附属病院及び国立循環器病研究センターにおいて自施設で保存していた組織を移植する場合に限り先進医療（*）として承認されています。（2014年7月現在）今後どうするのが妥当と思われますか？

（*）先進医療とは、一般の保険診療として認められている水準を超えた新しい医療技術等に対して厚生労働大臣から承認された医療行為です。保険未収載のため先進医療部分の医療費は全額患者さんの自己負担となりますが、保険診療との併用が認められています

- 1.現行のまま、一部の施設で先進医療として実施すべき
- 2.施設を限定し、保険診療として実施すべき
- 3.施設を限定せず、保険診療として実施すべき
- 4.先進医療や、保険診療として実施すべきではない
- 5.分からない
- 6.その他（ご自由にお書き下さい： ）

Q13.組織移植のための活動に際しては、「臓器の移植に関する法律」の運用に関する指針第14に“組織の移植のための特段の法令はないが（中略）医療的見地、社会的見地から相当と認められる場合には許容されるものであること”との記載があり、現在「日本組織移植学会ガイドライン」に則って実施されています。組織移植のための活動に際して今後どうするのが妥当と思われますか？

- 1.法的整備が必要
- 2.法的整備は不要
- 3.分からない
- 4.その他（ご自由にお書き下さい： _____ ）

差し支えなければ、ご所属の施設名、職種及び経験年数をお答え下さい

ご所属施設名： _____

職種：医師 看護師 検査技師 事務 その他（ _____ ）

経験年数： 1年未満 1～5年 5～10年 10年以上

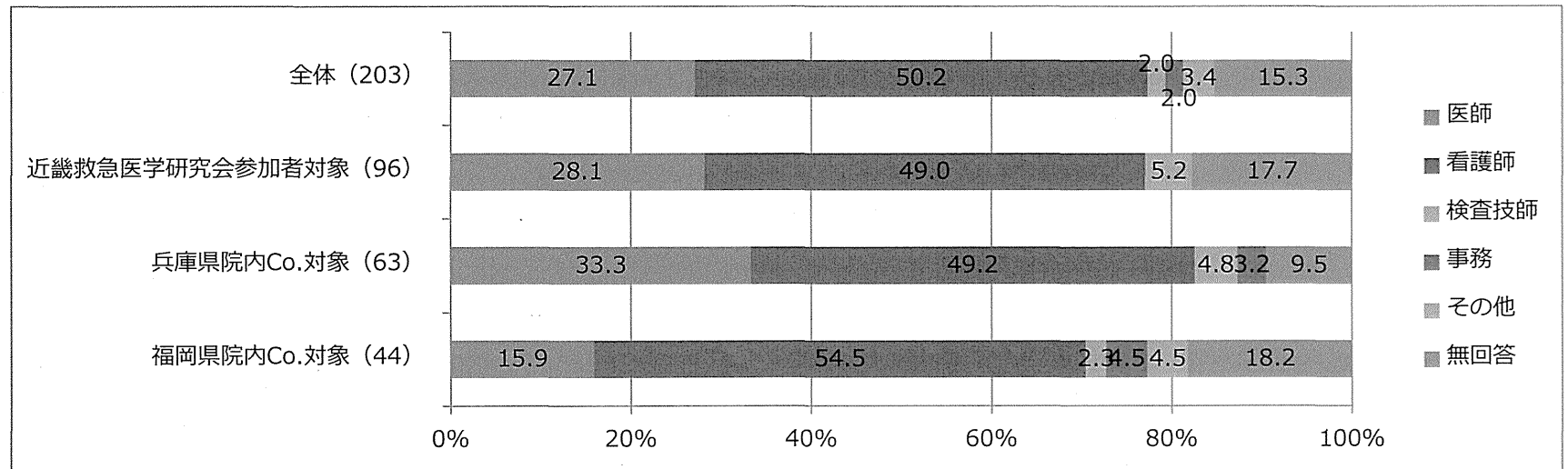
ご協力ありがとうございました。

医療従事者対象アンケート結果分析

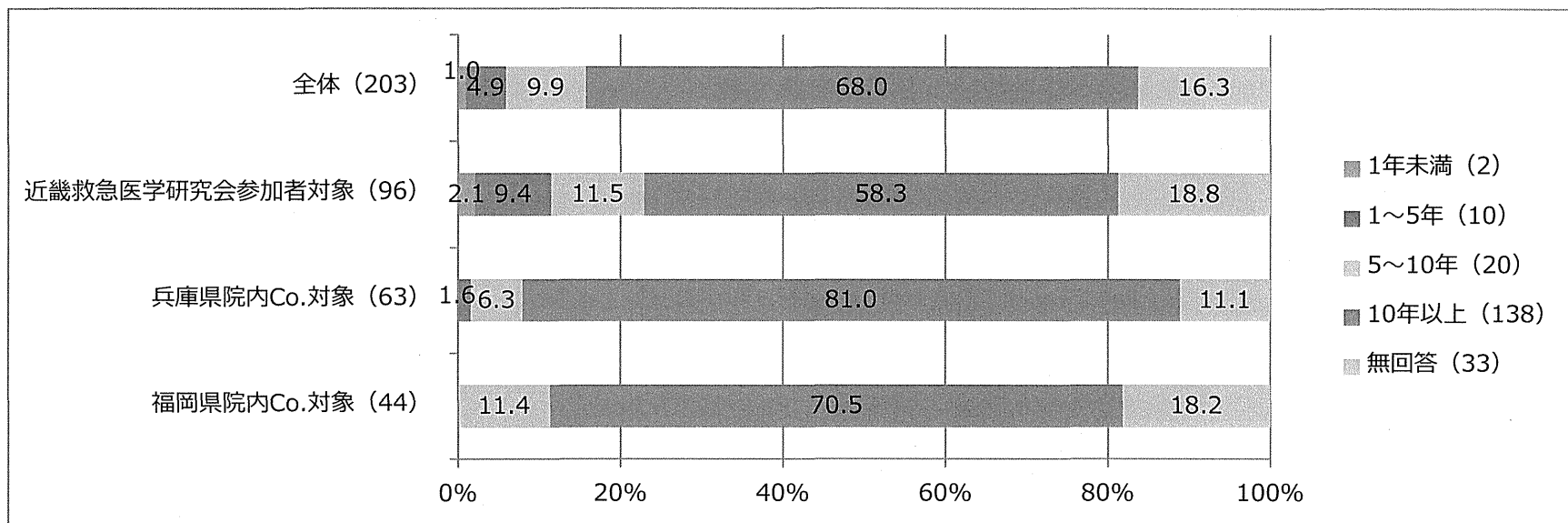
別添 1

回答者属性（職種）

	全体(203)	近畿救急医学研究会参加者 (96)	兵庫県院内 Co. (63)	福岡県院内 Co. (44)
医師	27.1(55)	28.1(27)	33.3(21)	15.9(7)
看護師	50.2(102)	49.0(47)	49.2(31)	54.5(24)
検査技師	2.0(4)	0.0(0)	4.8(3)	2.3(1)
事務	2.0(4)	0.0(0)	3.2(2)	4.5(2)
その他	3.4(7)	5.2(5)	0.0(0)	4.5(2)
無回答	15.3(31)	17.7(17)	9.5(6)	18.2(8)



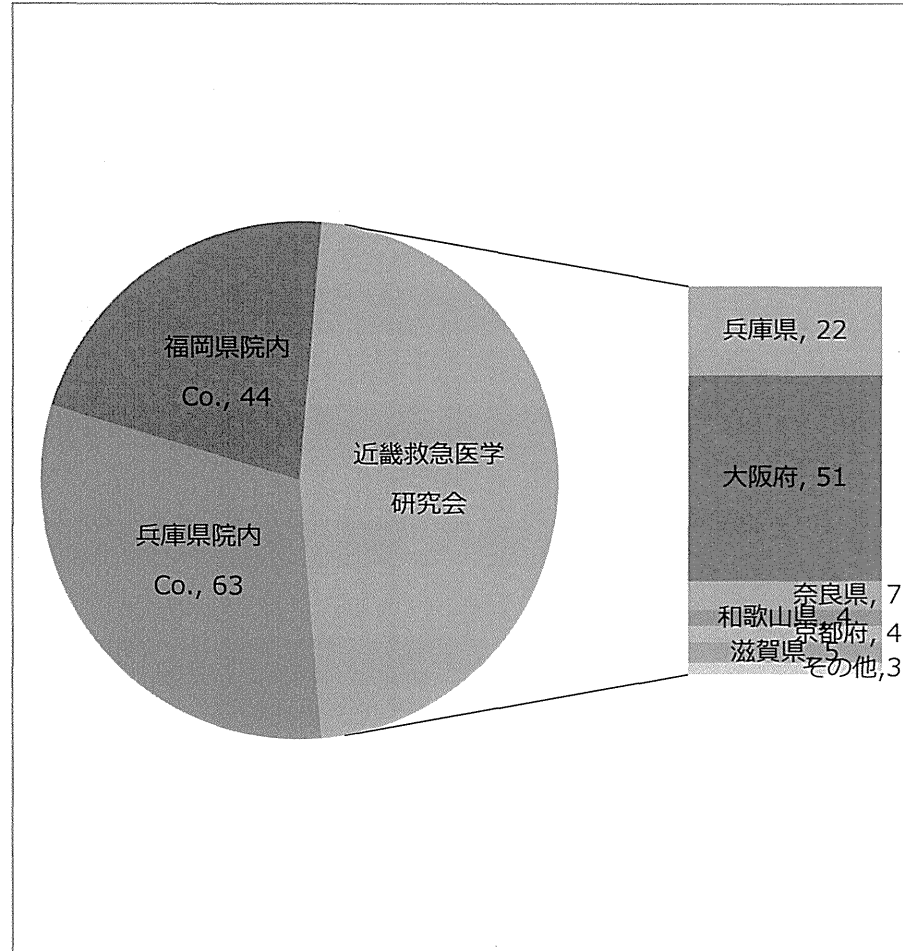
	全体(203)	近畿救急医学研究会参加者 (96)	兵庫県院内 Co.(63)	福岡県院内 Co.(44)
1年未満	1.0(2)	2.1(2)	0.0(0)	0.0(0)
1~5年	4.9(10)	9.4(9)	1.6(1)	0.0(0)
5~10年	9.9(20)	11.5(11)	6.3(4)	11.4(5)
10年以上	68.0(138)	58.3(56)	81.0(51)	70.5(31)
無回答	16.3(33)	18.8(18)	11.1(7)	18.2(8)



所属施設地域

Q1. 属されている施設の地域を教えてください

	兵庫県院内 Co.	63
	福岡県院内 Co.	44
近畿救急 医学研究会(203)	兵庫県	22
	大阪府	51
	奈良県	7
	和歌山県	4
	京都府	4
	滋賀県	5
	その他	3

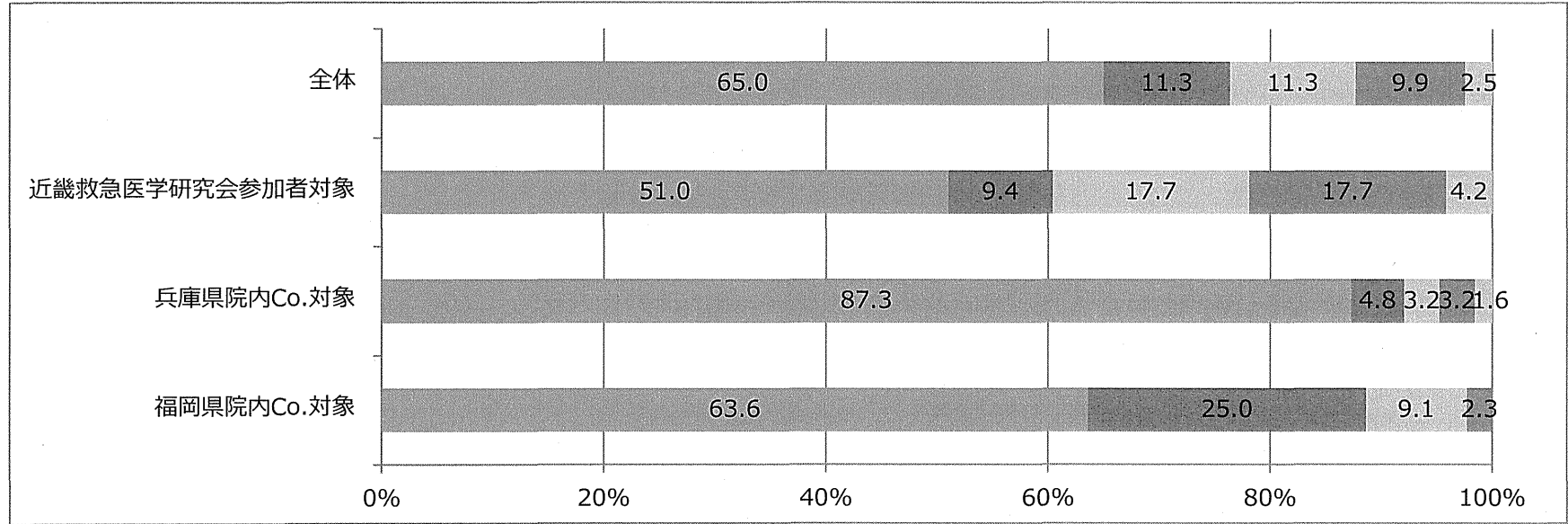


臓器提供可否

Q2. 在所属されている施設は臓器提供が可能ですか？

	全体(203)	近畿救急医学研究会参加者(96)	兵庫県院内 Co.(63)	福岡県院内 Co.(44)
脳死下及び心停止下臓器提供が可能	65.0(132)	51.0(49)	87.3(55)	63.6(28)
心停止下臓器提供が可能	11.3(23)	9.4(9)	4.8(3)	25.0(11)
臓器提供が出来ない	11.3(23)	17.7(17)	3.2(2)	9.1(4)
分からない	9.9(20)	17.7(17)	3.2(2)	2.3(1)
無回答	2.5(5)	4.2(4)	1.6(1)	0.0(0)

脳死下及び心停止下臓器提供が可能
 心停止下臓器提供が可能
 臓器提供が出来ない
 分からない
 無回答

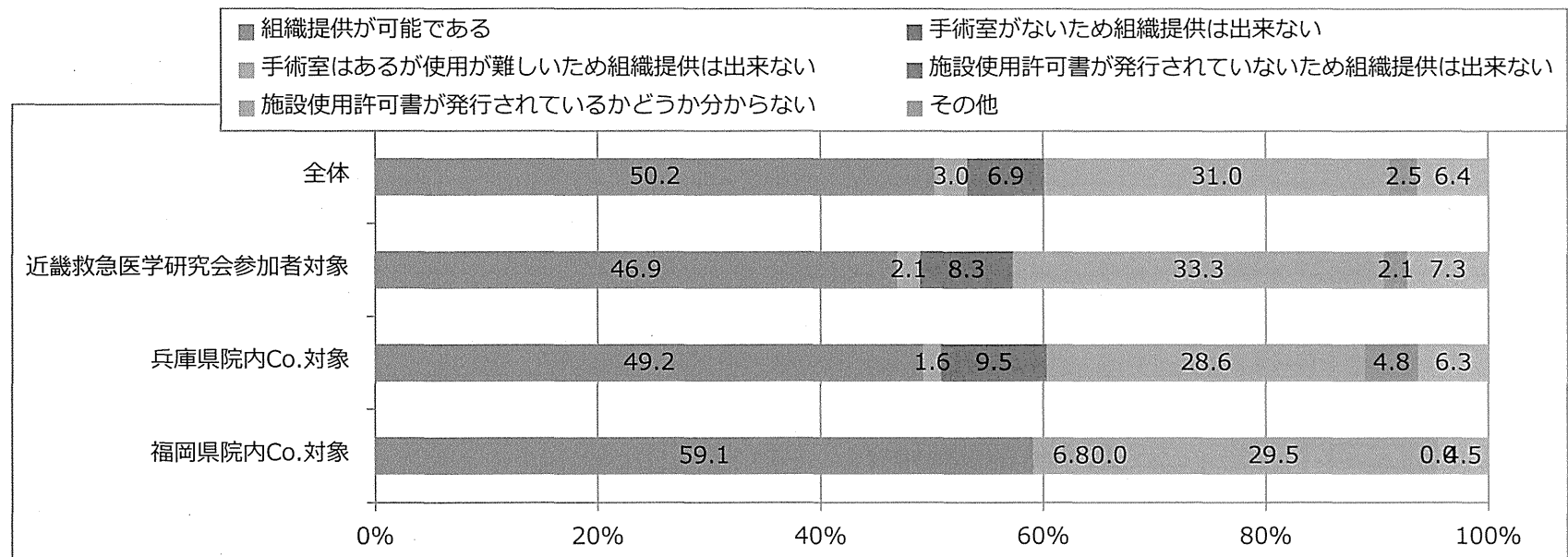


組織提供可否

Q3. 現在所属されている施設は組織提供が可能（*）ですか？

（*）組織提供は手術室を有する施設で、且つ組織の提供に関する施設使用許可書を発行している施設で可能です

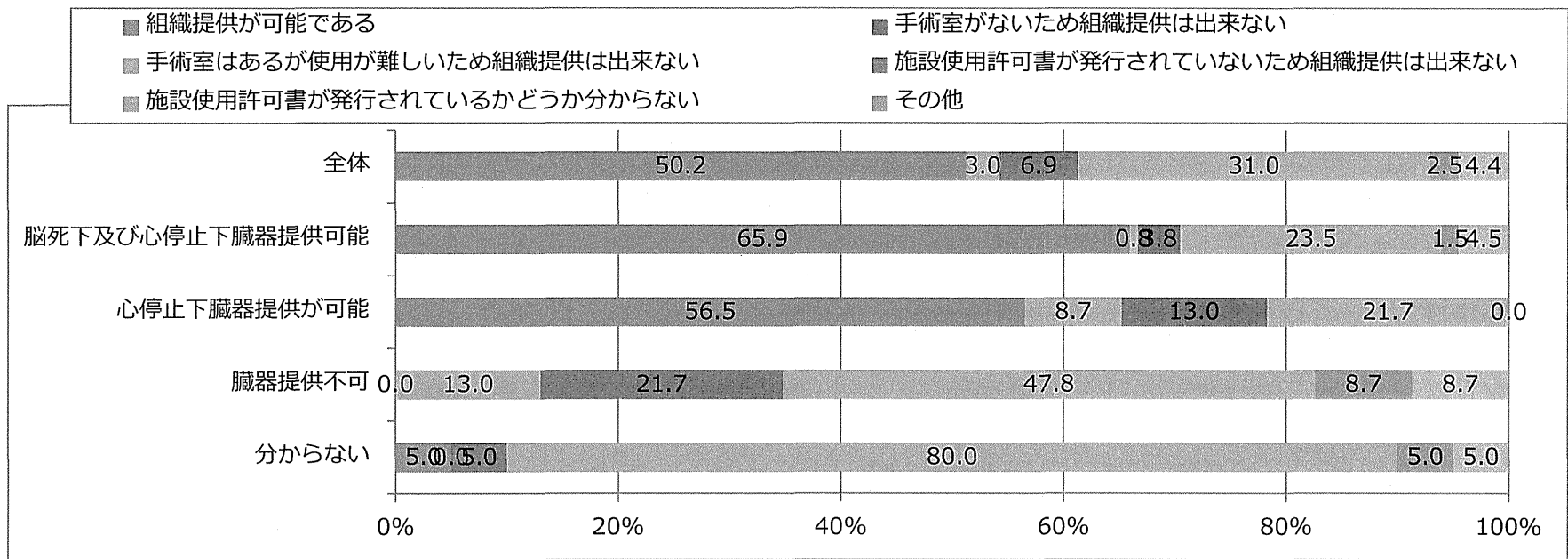
	全体(203)	近畿救急医学研究会 参加者(96)	兵庫県院内 Co.(63)	福岡県院内 Co.(44)
組織提供が可能である	50.2(102)	46.9(45)	49.2(31)	59.1(26)
手術室がないため組織提供は出来ない	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
手術室はあるが使用が難しいため組織提供は出来ない	3.0(6)	2.1(2)	1.6(1)	6.8(3)
施設使用許可書が発行されていないため組織提供は出来ない	6.9(14)	8.3(8)	9.5(6)	0.0(0)
施設使用許可書が発行されているかどうか分からない	31.0(63)	33.3(32)	28.6(18)	29.5(13)
その他	2.5(5)	2.1(2)	4.8(3)	0.0(0)
無回答	6.4(13)	7.3(7)	6.3(4)	4.5(2)



組織提供可否（臓器提供可否別）

Q3. 略。(Q2.への回答起点。無回答を除く)

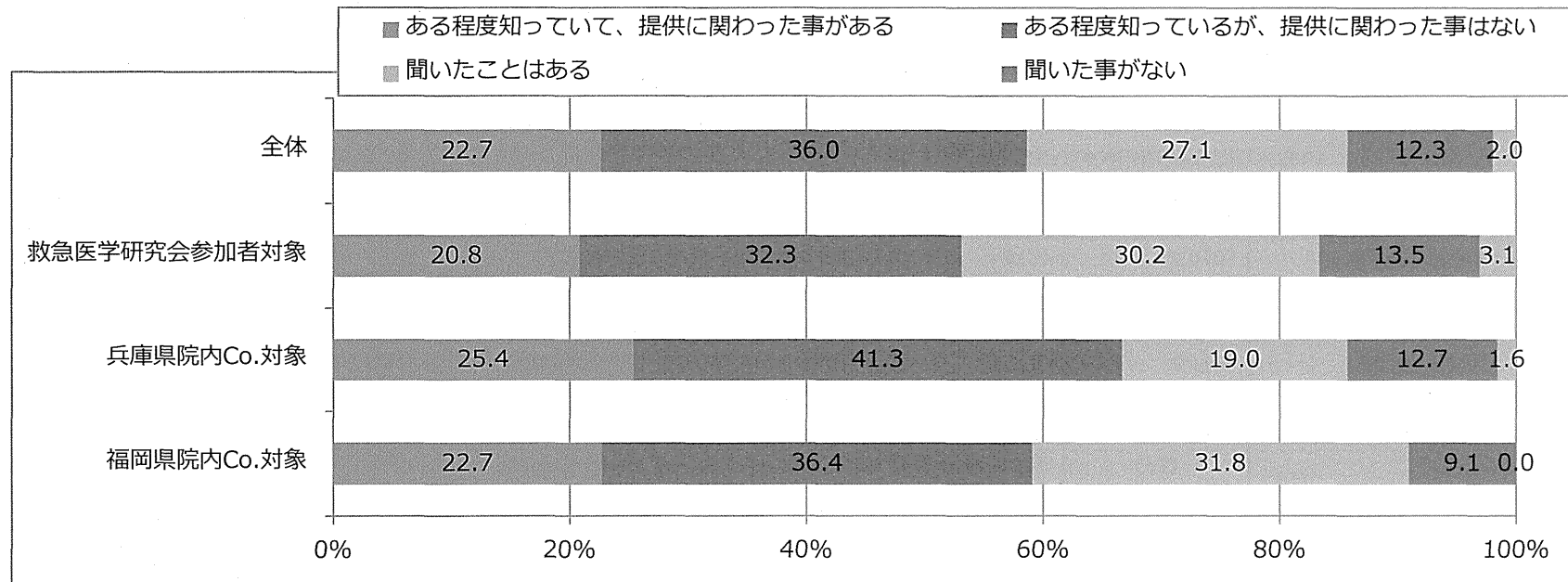
	全体(198)	脳死下及び心停止下臓器提供可能(132)	心停止下臓器提供が可能(23)	臓器提供不可(23)	分からない(20)
組織提供が可能である	50.2(102)	65.9(87)	56.5(13)	0.0(0)	5.0(1)
手術室がないため組織提供は出来ない	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)
手術室はあるが使用が難しいため組織提供は出来ない	3.0(6)	0.8(1)	8.7(2)	13.0(3)	0.0(0)
施設使用許可書が発行されていないため組織提供は出来ない	6.9(14)	3.8(5)	13.0(3)	21.7(5)	5.0(1)
施設使用許可書が発行されているかどうか分からない	31.0(63)	23.5(31)	21.7(5)	47.8(11)	80.0(16)
その他	2.5(5)	1.5(2)	0.0(0)	8.7(2)	5.0(1)
無回答	4.4(9)	4.5(6)	0.0(0)	8.7(2)	5.0(1)



組織移植の認知度

Q4. 組織移植について御存知ですか？

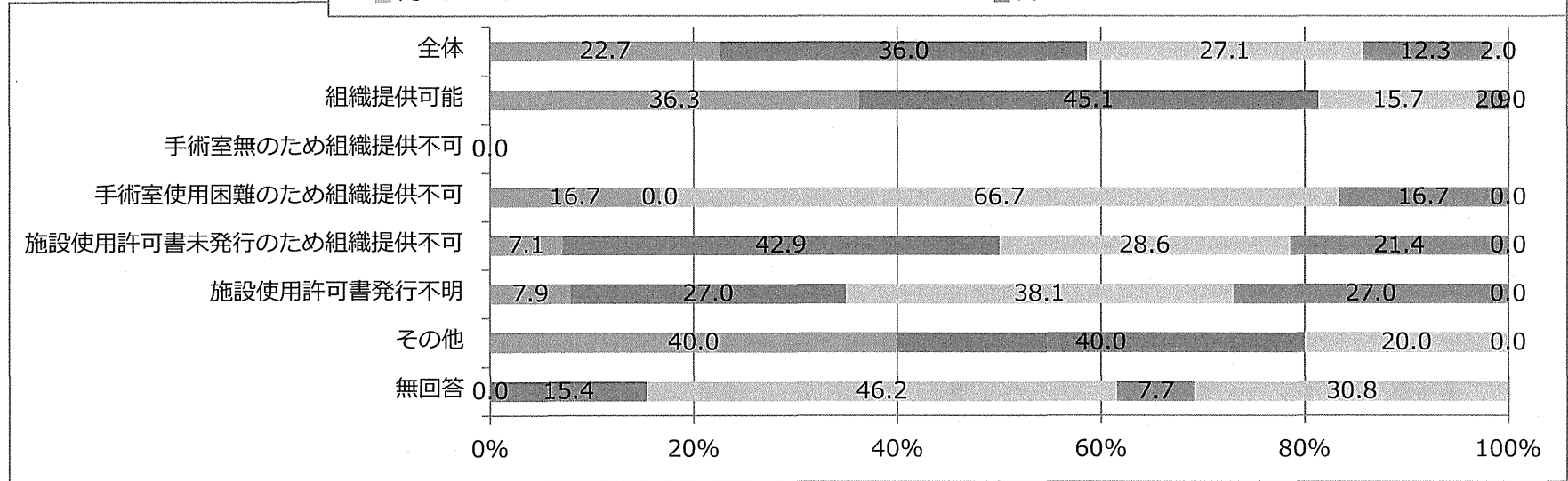
	全体(203)	近畿救急医学研究会参加者(96)	兵庫県院内 Co. (63)	福岡県院内 Co. (44)
ある程度知っていて、提供に関わった事がある	22.7(46)	20.8(20)	25.4(16)	22.7(10)
ある程度知っているが、提供に関わった事はない	36.0(73)	32.3(31)	41.3(26)	36.4(16)
聞いたことはある	27.1(55)	30.2(29)	19.0(12)	31.8(14)
聞いた事がない	12.3(25)	13.5(13)	12.7(8)	9.1(4)
無回答	2.0(4)	3.1(3)	1.6(1)	0.0(0)



組織移植の認知度（組織提供可否別）

Q4. 略（Q3.への回答起点）

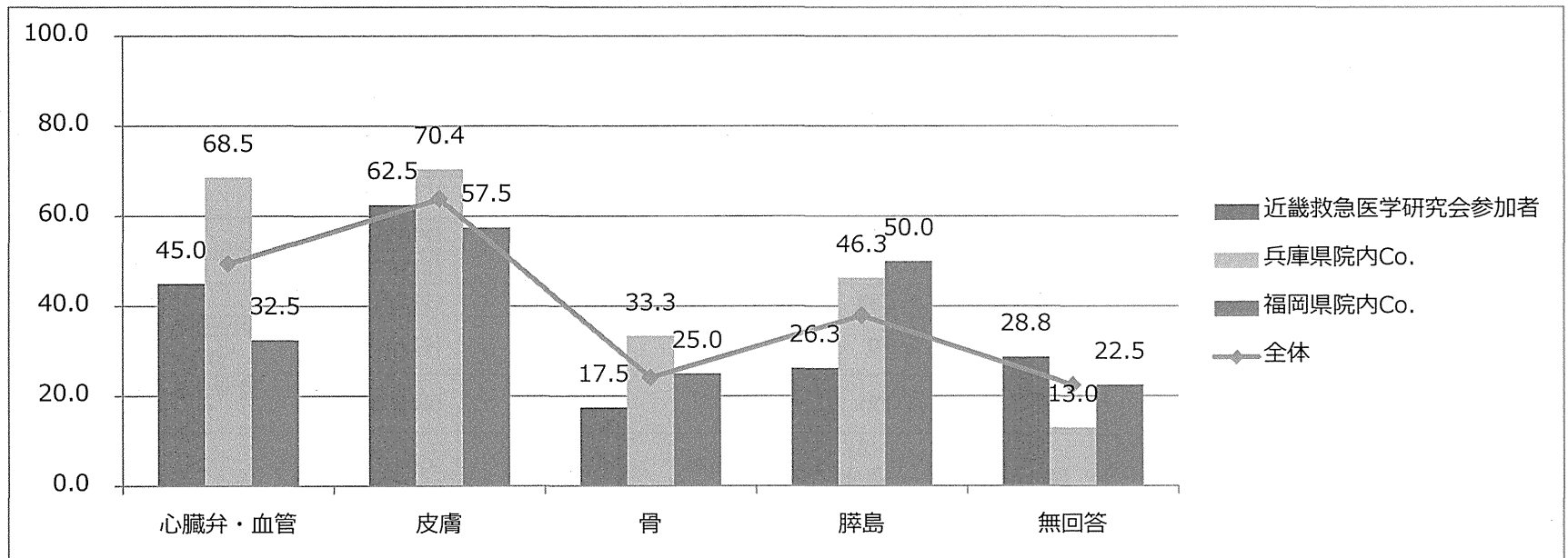
	全体 (203)	組織提供 可能 (102)	手術室無の ため組織提 供不可 (0)	手術室使用 困難のため 組織提供 不可 (6)	施設使用許 可書未発行 のため組織 提供不可 (14)	施設使用許 可書発行 不明 (63)	その他 (5)	無回答 (13)
ある程度知っていて、 提供に関わった事がある	22.7(46)	36.3(37)	0.0(0)	16.7(1)	7.1(1)	7.9(5)	40.0(2)	0.0(0)
ある程度知っているが、 提供に関わった事はない	36.0(73)	45.1(46)	0.0(0)	0.0(0)	42.9(6)	27.0(17)	40.0(2)	15.4(2)
聞いたことはある	27.1(55)	15.7(16)	0.0(0)	66.7(4)	28.6(4)	38.1(24)	20.0(1)	46.2(6)
聞いた事がない	12.3(25)	2.9(3)	0.0(0)	16.7(1)	21.4(3)	27.0(17)	0.0(0)	7.7(1)
無回答	2.0(4)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	0.0(0)	30.8(4)



認知している組織移植

Q5. (ご存知の方) 具体的にどの組織について御存知ですか? (複数回答可)

	心臓弁・血管	皮膚	骨	膵島	無回答
全体(174)	49.4(86)	63.8(111)	24.1(42)	37.9(66)	22.4(39)
近畿救急医学研究会参加者(80)	45.0(36)	62.5(50)	17.5(14)	26.3(21)	28.8(23)
兵庫県院内 Co.(54)	68.5(37)	70.4(38)	33.3(18)	46.3(25)	13.0(7)
福岡県院内 Co.(40)	32.5(13)	57.5(23)	25.0(10)	50.0(20)	22.5(9)

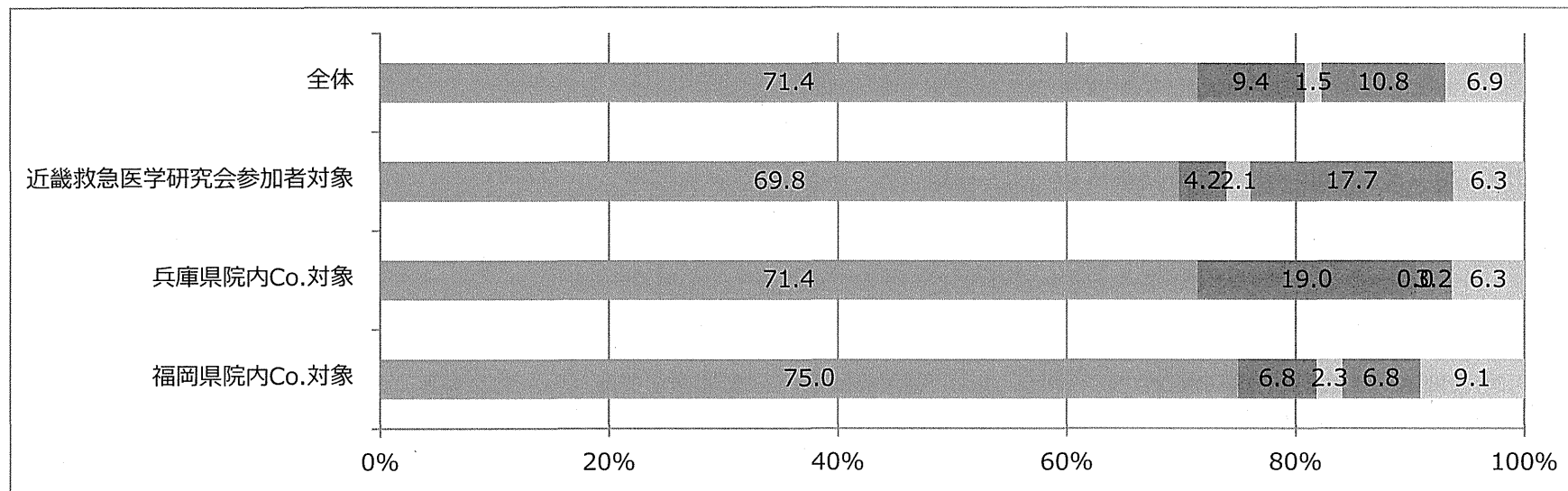


臓器・組織提供協力意向

Q6. 患者さん、ご家族から臓器・組織提供の申し出があった場合、どのように対応されますか？

	全体(203)	近畿救急医学研究会参加者(96)	兵庫県院内 Co. (63)	福岡県院内 Co. (44)
臓器・組織の提供に協力する	71.4(145)	69.8 (67)	71.4(45)	75.0(33)
臓器のみ提供に協力する	9.4(19)	4.2(4)	19.0(12)	6.8(3)
組織のみ提供に協力する	1.5(3)	2.1(2)	0.0(0)	2.3(1)
協力は困難と思われる	10.8(22)	17.7(17)	3.2(2)	6.8(3)
無回答	6.9(14)	6.3(6)	6.3(4)	9.1(4)

■ 臓器・組織の提供に協力する ■ 臓器のみ提供に協力する ■ 組織のみ提供に協力する ■ 協力は困難と思われる ■ 無回答



臓器・組織提供協力意向（臓器提供可否別）

Q6.略（Q2.への回答起点）

	全体(203)	脳死下及び心停止下臓器提供可能(132)	心停止下臓器提供が可能(23)	臓器提供不可(23)	分からない(20)	無回答(5)
臓器・組織の提供に協力する	71.4(145)	81.8(108)	78.3(18)	34.8(8)	50.0(10)	20.0(1)
臓器のみ提供に協力する	9.4(19)	9.8(13)	17.4(4)	4.3(1)	5.0(1)	0.0(0)
組織のみ提供に協力する	1.5(3)	0.0(0)	4.3(1)	4.3(1)	0.0(0)	20.0(1)
協力は困難と思われる	10.8(22)	1.5(2)	0.0(0)	56.5(13)	35.0(7)	0.0(0)
無回答	6.9(14)	6.8(9)	0.0(0)	0.0(0)	10.0(2)	60.0(3)

